

向島まちづくりビジョン推進会議の開催について

向島ニュータウンは昭和52（1977）年4月に入居が開始され、本年度で40年が経過し、全国の同時期に建設されたニュータウンと同様、人口減少、少子高齢化が急激に進行しており、また、市営住宅を始めとした各施設では老朽化が進み、設備や仕様が時代に合わなくなっているところや有効活用が図れていないところなどが見受けられます。

※ 平成7年と平成27年の国勢調査比較

人口：京都市 1,463,822 人→1,475,183 人（+0.7%）＝微増
 向島NT 18,381 人→ 12,464 人（▲32.2%）＝3分の1減

高齢人口：京都市 213,408 人→381,132 人（+78.6%）＝1.8倍
【構成割合 14.6% → 25.8%】
 向島NT 1,206 人→ 4,539 人（+276.4%）＝3.8倍
【構成割合 6.6% → 36.4%】

年少人口：京都市 200,258 人→162,141 人（▲19.0%）＝2割減
【構成割合 13.7% → 11.0%】
 向島NT 3,751 人→ 1,121 人（▲70.1%）＝7割減
【構成割合 20.4% → 9.0%】

このままでは、「人口減少・少子高齢化や老朽化→地域の活力の低下→地域の不便さの増大→地域全体の魅力の低下とイメージダウン→人口流入も見込めず、活力低下に拍車・・・」といった悪循環になりかねず、公営住宅、分譲住宅、公共施設や商業施設等が折角整備されたニュータウンが、これからも「まち」として持続していくためにも早急に再生の取組を進めることが望まれます。

そこで、向島ニュータウンを、次世代にしっかりと引き継いでいくことを目指し、「住む方誰もが生き生きと暮らせる環境づくり」とともに、「若者・子育て世代も移り住みたくなるようなまちづくり」に取り組み、向島ニュータウンの再生、ひいては向島地域全体の活性化を図るための方針を、地域の住民・事業者と行政が協働して、平成28年度末に「向島ニュータウンまちづくりビジョン」として取りまとめました。

当然のことながら、再生・活性化の取組は、ビジョンを策定して終わりではありません。このビジョンには、具体的な取組項目が121（推進体制関連項目6を含む。）掲げられていますが、全てがすぐに着手できるものではなく、今後も継続して検討していくべきものもあります。

計画期間の4年間で、このビジョンに位置づけた各取組を着実に進めていくために、取組の進行管理や取組主体同士の連携促進などを行うことが必要であることから、この度、地域が主体となって、「推進会議の設立」を始めとした推進体制を整備するものであり、本日の「向島まちづくりビジョン推進会議」において、御確認いただきたいと思います。

向島地域の住民や団体、また、地域に関連する事業者・行政関係者、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。